

事後評価シート

県土整備部

番号	事業名 箇所名	市町村名	事業概要	事業期間			事業費 (百万円)	対象 理由	事後評価の結果 ※2	総合評価	担当課	特記事項
				着手	※1 再評価	完成						
7	河川事業 北川・小川・ 多良田川	延岡市	宅地嵩上 N=126戸	H15	-	(H24續) H25	3,757	①	<p>【事業の目的】 北川の上流域（小川合流点より上流）及び北川支川の小川、多良田川流域においては、平成9年9月の台風19号、平成16年10月の台風23号により甚大な家屋浸水被害が生じ、地形的な制約から連続堤方式による改修が困難であるため、水防災対策特定河川事業として宅地嵩上げを実施し、家屋の浸水被害の軽減を図ることを目的としている。</p> <p>【事業効果の発現状況】 1/25確率規模の洪水時の水位を対象として宅地の嵩上げを実施しており、事業完了後において、同規模の洪水が発生しているが、家屋の浸水被害は発生していないため、事業効果は発現している。また、浸水するおそれのある区域に、家屋の建築を制限する災害危険区域を指定したことで、浸水区域内に新たな家屋は建築されていない。 (H9年9月台風19号 5,000m³/s 浸水家屋155戸(床上58戸、床下97戸)) (H16年10月台風23号 4,900m³/s 浸水家屋101戸(床上69戸、床下32戸)) (H28年9月台風16号 4,000m³/s 浸水家屋 0戸) (H29年9月台風18号 4,600m³/s 浸水家屋 0戸) ※H9年、H16年は熊田観測所、H28年、H29年は長井観測所の流量</p> <p>【事業による環境の変化や環境保全】 宅地の嵩上げであるため、事業による周辺環境の改変はなく、そのまま保全されている。</p> <p>【施設の維持管理状況】 宅地嵩上げ後の施設は、所有者に引き渡しを行っており、河川管理者として維持管理している施設はなく、所有者から引き渡した施設に変状が生じている等の報告もない。また、宅地嵩上げの効果が継続的に発現するよう、堆積土砂の除去を適正に行っている。</p> <p>【今後の事業評価の必要性】 事業実施後に計画規模相当の洪水が発生しているが、家屋の浸水被害はなく、事業効果が確認できたことから、事業評価の必要性はないと考えられる。</p> <p>【改善措置の必要性】 事業効果が発現できており、また環境への負荷も認められないことから、改善措置の必要性はないと考えられる。</p> <p>【同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性】 盛土材の確保に関し、他工事発生土の調整等、建設副産物の有効利用や計画を上回る大規模災害への備えとして、浸水時の孤立化を防ぐための早期避難に関する住民への意識付け、救急体制づくり等、事業着手時から市町と一体となったソフト対策に取り組んでいくことが望ましいと考えられる。</p>	事業効果が認められる	河川課	特になし

(対象理由) ①全体事業費が基準額以上であり、かつ事業完了後一定期間が経過した事業
②再度、事後評価の必要があると判断した事業

※1 再評価の実施年度については、直近のものを記載すること。
※2 事後評価の際には、出来る限り客観的な数値を記載すること。